

芦屋町との下水道事業（汚水）に係る 広域連携について



北九州市上下水道局下水道部
下水道計画課長 松本 実



**Kitakyushu
Action!**

動かせ、未来。北九州市

1. 芦屋町の下水道事業の概要

◆ 位置図



◆ 芦屋町、北九州市資産等一覧

		芦屋町	北九州市
処理区域面積	(ha)	524	16,628
処理区域内人口	(人)	12,805	914,684
管渠延長(汚水)	(km)	94	4,298
下水道普及率	(%)	99.9	99.9
処理場数	(ヶ所)	1	5
ポンプ場数	(ヶ所)	7	34

◆ 芦屋町の主要な下水道施設



2. 広域連携に至る検討経緯

◆ 平成28年度から近隣17市町を中心に勉強会を開催

下水道事業勉強会（全15回）

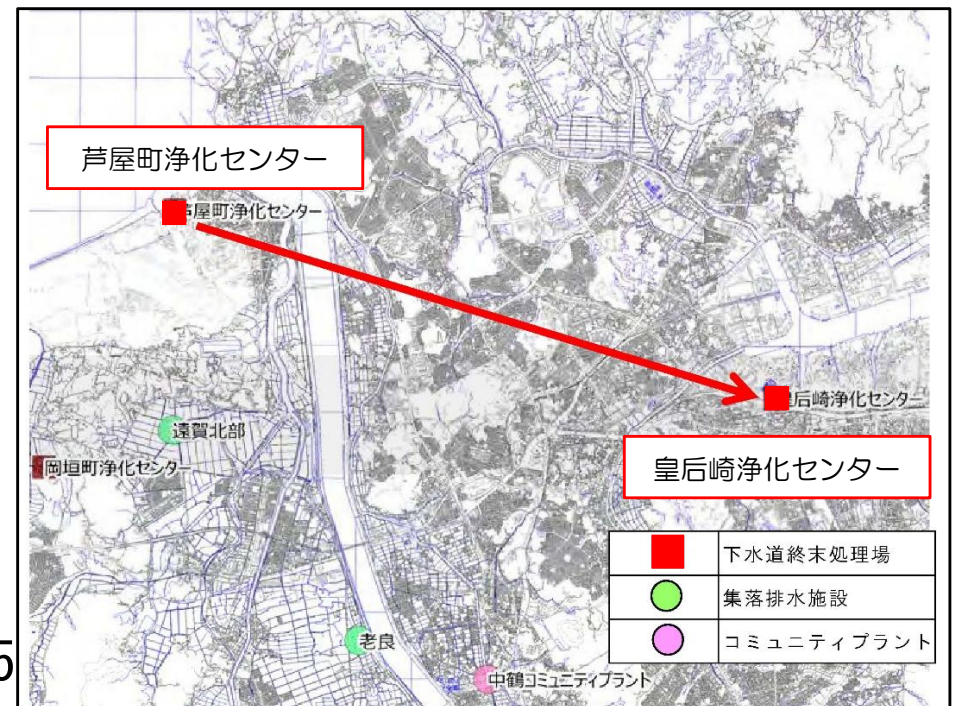
- 枠組み H28～H30：連携中枢都市圏「北九州都市圏域」ビジョン
R元～R6：広域化・共同化計画検討の一環として県と共催
- 参加団体 国土交通省、福岡県、日本下水道協会、JS、関係自治体
- 検討内容 近隣自治体が抱える下水道事業の課題共有
「施設の統廃合」や「維持管理の共同化」等のディスカッション
「広域化・共同化計画」の策定



勉強会の様子（第8回）

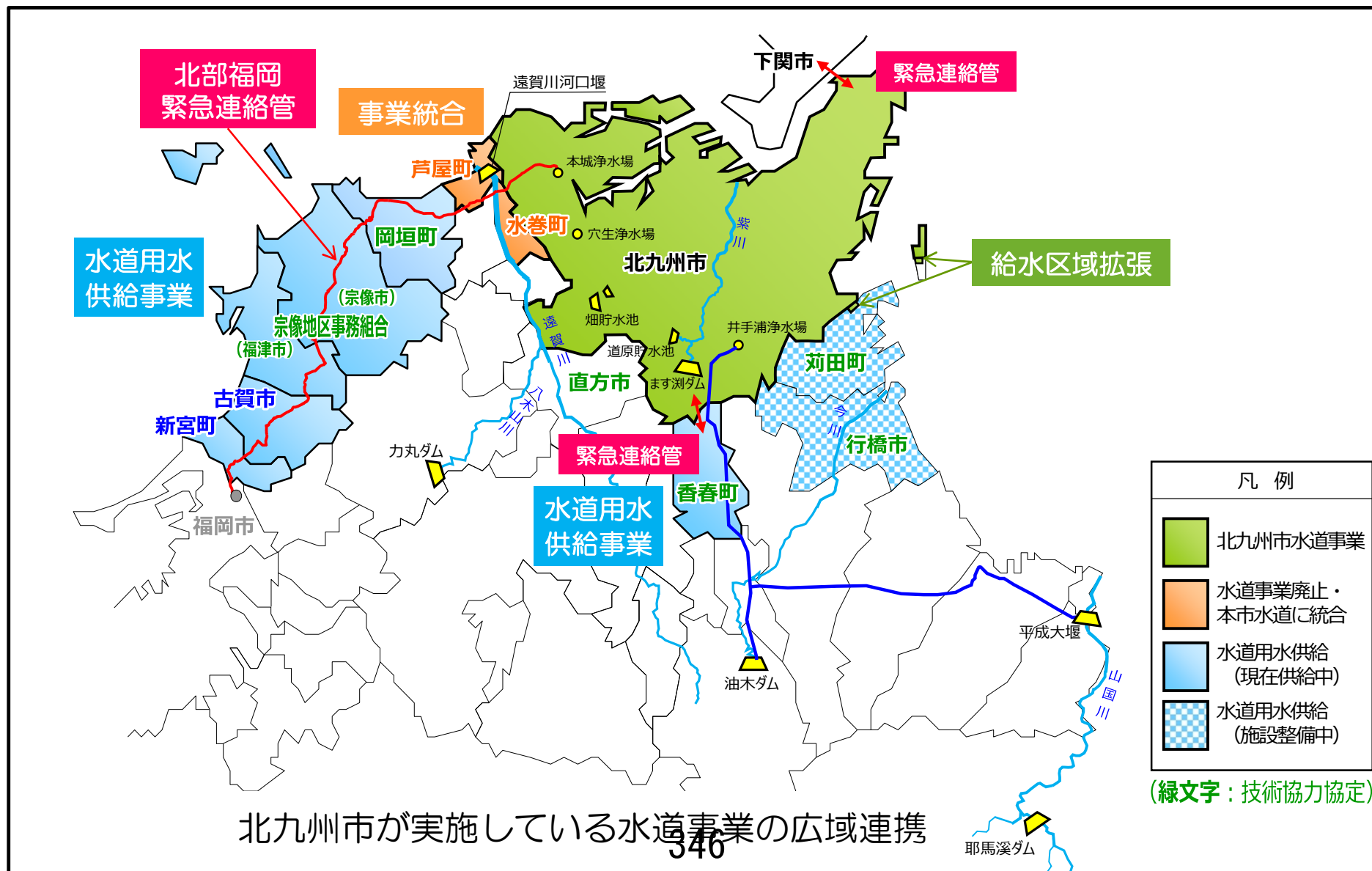
◆ 福岡県汚水処理事業広域化・共同化計画（R5.3）

広域連携のメニュー「処理場の統廃合」の一つとして、「芦屋町浄化センターを廃止、ポンプ場化し、隣接する北九州市皇后崎浄化センターに接続する」取組みが位置づけ



3. 北九州市水道事業の広域連携

- ◆ 北九州市は芦屋町の水道事業を平成19年に事業統合し、本市と一体的に管理・運営
今回の下水道分野の連携は、この長年の協力関係を発展させるもの



4. 芦屋町との広域連携の目的と期待

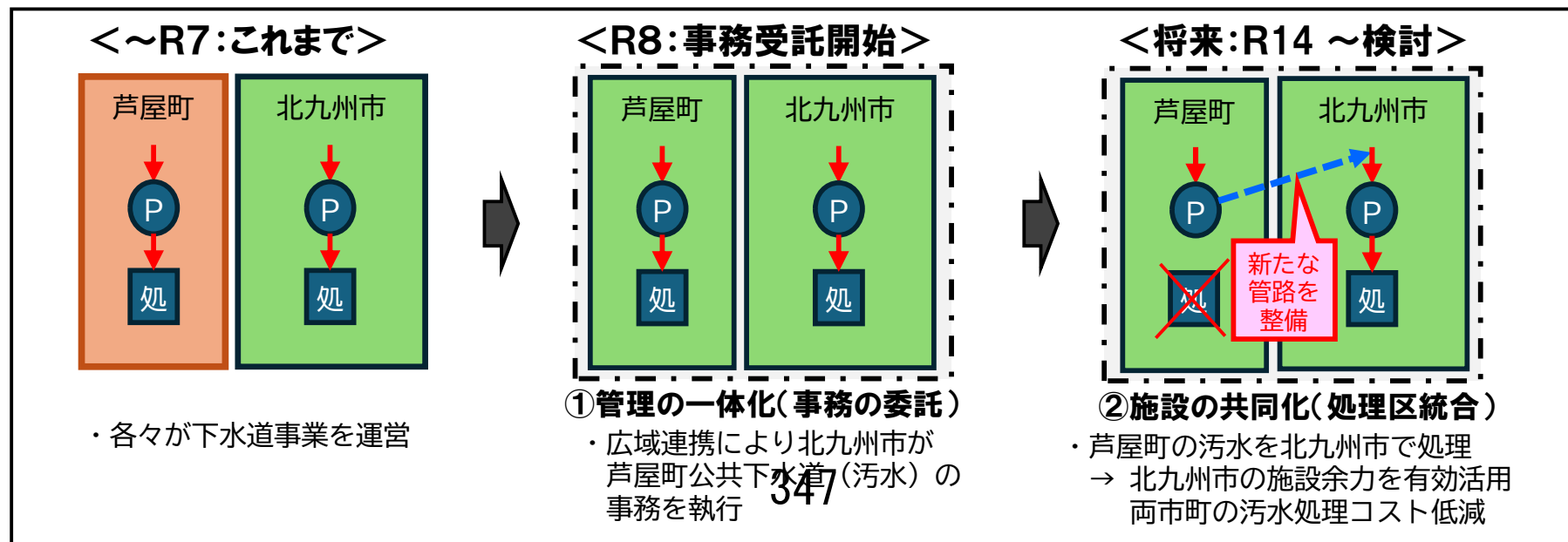
◆ 現状

- 両市町ともに、人口減少、技術職員不足、施設の老朽化といった課題が深刻化
特に芦屋町では技術職員不足から、単独での事業継続が困難になりつつある状況
- ⇒ 北九州市が長年培ってきた下水道事業の技術力と経験を活かし、芦屋町の持続可能な下水道サービス確保と本市の連携中枢都市としての責務遂行を目指す

◆ 将来

- 芦屋町の浄化センターを廃止し、北九州市の浄化センターで汚水を処理することで、芦屋町側は汚水処理コストの低減、本市は浄化センターの有効活用と処理収入が増加
- ⇒ 両市町にとって経営面でのメリットが生まれ、Win-Winの関係で、持続可能な下水道サービスの提供へと繋がることを最大の効果として期待

◆ 事業イメージ



5. 広域連携のスキーム

- ◆ 下水道事業の主要事務について
地方自治法に基づく「事務の委託」、「事務の代替執行」として受託



6. 北九州市・芦屋町下水道広域連携推進事業（北九州市）

福岡県汚水処理事業広域化・共同化計画に基づき、将来、芦屋町公共下水道を北九州市に接続する前提で、本事業により市内の関連施設の改築を行う

- 事業内容 : 芦屋町の汚水が流入する管渠・ポンプ場・処理場の老朽化対策、耐震化など（皇后崎処理区・北湊処理区の一部）
- 事業期間 : 令和8年度～令和17年度
- 全体事業費 : 約143億円

◆ 事業概要

